

～各教科・領域のポイント～

【幼稚園教育】

1. 幼稚園教育の基本

(1) 幼稚園教育の基本

○幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うもの

【3つの視点】

- ・主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開される。
(安定した情緒の下で自己を十分に発揮できる。)
→いつでも自分の話を聞いてくれたり、気持ちを受け止めてくれたりする大人の存在が必要。
- ・遊びを通しての指導を中心とする。
(自発的な活動としての遊びを通して学ぶ。)
→教育の営みとしてしっかりと自覚し、後押しする。
- ・一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行う。
(心身の相互関連、多様な経過をたどって発達していることや生活経験を考慮。)
→子供の特性を生かしながら、心を動かされているものを捉え、よりよい環境をつくっていく。

(2) 幼稚園教育要領改訂のポイント

①幼稚園教育において育みたい資質・能力の明確化

②小学校教育との円滑な接続の一層の強化

③カリキュラム・マネジメントの実施

④指導計画作成上の留意事項の充実

- 主体的・対話的で深い学びの実現
- 言語活動の充実
- 遊びや生活の中での見通しや振り返りの工夫
- 視聴覚教材やコンピュータなど情報機器の活用 等

⑤幼児理解に基づいた評価の実施

- 幼児理解に基づいた指導の改善
- 評価の妥当性や信頼性が高められるような創意工夫
- 次年度や小学校等への適切な引継ぎ

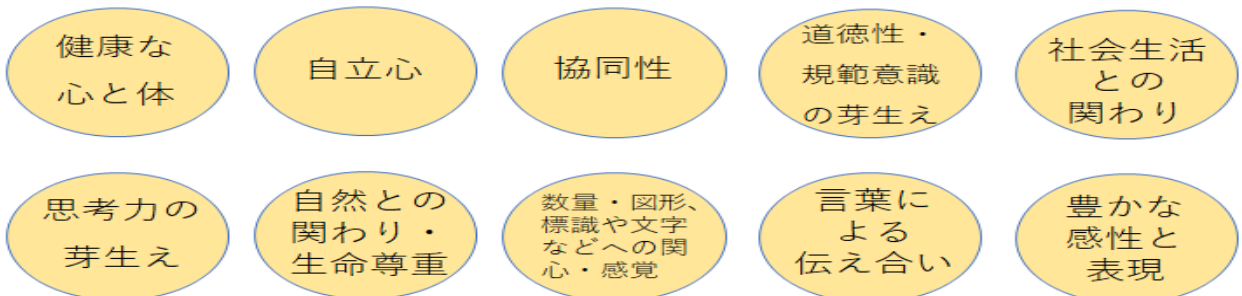
⑥特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実

- 障害のある幼児などへの指導
 - ・組織的かつ計画的な、個々の幼児の障害の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫
 - ・個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用した教育的支援
- 海外から帰国した幼児や生活に必要な日本語の習得に困難のある幼児の幼稚園生活への適応
 - ・組織的かつ計画的な、個々の幼児の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫

2. 幼稚園教育において育みたい資質・能力



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 (10の姿)



※到達目標ではなく、資質・能力が育っていく中で、一人一人の発達に応じて育っていくもの

★幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の5歳児終了時の具体的な姿。
- ・実際の指導では、到達すべき目標ではないことや個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要がある。（子供の成長を見取る視点）
- ・幼稚園等の教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、「10の姿」を共有し、幼稚園等での教育の成果が小学校につながるようにすることが大切。

①健康な心と体

- ・自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせる。
- ・見通しをもって、自ら健康で安全な生活をつくり出す。

②自立心

- ・自分の力でやり遂げる体験などを通じて、自信をもって行動する。

③協同性

- ・友達と一緒に、共通の目的の実現に向けて、考えたり、協力したりしてやり遂げるようになる。

④道徳性・規範意識の芽生え

- ・よいことや悪いことがわかり、相手の立場に立って行動するようになる。
- ・きまりをつくったり、守ったりするようになる。

⑤社会生活との関わり

- ・家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、地域に親しみをもつようになる。
- ・幼稚園内外の環境に関わる中で、情報を役立てながら活動する（判断・伝え合い・活用等）ようになるとともに、社会とのつながり（公共の施設等）などを意識するようになる。

⑥思考力の芽生え

- ・身近な事象に積極的に関わる中で、多様な関わりを楽しむようになる。
（物の性質や仕組みについて、感じ取る・気付く・考える・予想する・工夫する等）
- ・友達の様々な考えに触れる中で、新しい考えを生み出す喜びを味わい、自分の考えをよりよいものにする。（異なる考え：気付き・判断・考え直す等）

⑦自然との関わり・生命尊重

- ・自然に触れて感動する体験を通して、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。（変化への気付き、好奇心、探究心 等）
- ・命あるものをいたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

- ・遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに、興味や関心、感覚をもつようになる。
（親しむ体験、役割への気付き、必要感に基づく活用 等）

⑨言葉による伝え合い

- ・経験したことなどを言葉で伝えたり、話を聞いたりして、伝え合いを楽しむようになる。
（絵本や物語への親しみ、経験・考えを言葉で伝える、相手の話を注意して聞く 等）

⑩豊かな感性と表現

- ・心を動かす出来事に触れ、感じたことを表現して、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。
（素材の特徴や表現の仕方への気付き、友達同士で表現する過程を楽しむ 等）

3. 幼稚園教育における主体的・対話的で深い学び

◇主体的な学び

主体的な学び (小学校学習指導要領解説総則編)

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているかという視点。

- ① 興味・関心を持つ
- ② 見通しをもつ
- ③ 粘り強く取り組む
- ④ 振り返る
- ⑤ 次につなげる



幼稚園教育では

自分からやろうとすること。
見通しをもち、
遊びを振り返ること。



- ・砂場の砂を掘り起こし、タライに水を張っておくことで、すぐに遊び始められるようにする。
- ・「明日は一緒に歌おうね。」と教師が声をかけ、期待と見通しがもてるようにする。
- ・運動会のリレーの話題から「ドキドキした」、「ドキドキでウキウキだね。」とみんなで振り返る。

◇対話的な学び

対話的な学び (小学校学習指導要領解説総則編)

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているかという視点。

- ① 子供同士の協働
- ② 教職員・地域の人との対話
- ③ 先哲の考え



自己の考えを広げる・深める



幼稚園教育では

感じ方や考え方を伝え合う。
自分以外のだれかの考えを取り込みながら、
自分もまた考えを出すことで、
体験の多様性と関連性が更に深まる。

(みんなで遊べる大きい「ぞう」を作る。)
「大きいダンボールでつくろうよ。」
「でも、ダンボールじゃ壊れるよ。」
教師「みんなが乗っても壊れないものあるかな？」
「そうだ。遊戯室でやる滑り台！」
「それ、いいね。」



◇深い学び

対話的な学び (小学校学習指導要領解説総則編)

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているかという視点。

☆ 見方・考え方

- ① 深い理解:知識を相互に関連付け
- ② 考えを形成:情報を精査
- ③ 問題を見出す→解決策
- ④ 創造:思いや考えを基に



幼稚園教育では

「なぜ」「どうやって」が入ってくる活動

(ゴムで動く船づくり)
「あれ?後ろに動いたよ。」
「私の船は前に動いた?」
「先生、私の船、後ろに動いたよ。なんでかな?」
教師「本当だね。先生もやってみようかな。」
(何度も動かしながら友達と一緒に考える。)
「こっちにくるくるってすると前に進んだよ。」
「ゴムを前に巻くと後ろに進むよ。」



4. 幼児理解に基づいた評価

(1) 評価の基本的な考え方

幼稚園の保育の一般的プロセス【幼児理解に基づいた評価（平成31年3月 文部科学省）】

- ① 幼児の姿から、ねらいと内容を設定する。
- ② ねらいと内容に基づいて環境を構成する。
- ③ 幼児が環境に関わって活動を展開する。
- ④ 活動を通して幼児が発達に必要な経験を得ていくような適切な援助を行う。



①～④のそれぞれについて評価

- ・ 幼児理解は適切であったか。
- ・ あらかじめ教師が設定した指導の具体的なねらいや内容は妥当なものであったか。
- ・ 環境の構成はふさわしいものであったか。
- ・ 教師の関わり方は適切であったか。

(2) 評価の進め方

① 個々の幼児の理解と評価

幼児理解の方法

- 1 幼児との触れ合いを通して幼児との相互理解を深める。
- 2 幼児が生活する姿を記録に残すとともに、その記録の方法を工夫する。
- 3 多くの目で幼児を見て、それを重ね合わせる。
- 4 家庭からの情報を生かす。

- ② 短期の指導計画の評価・改善
- ③ 長期の指導計画の評価・改善
- ④ 教育課程の評価・改善

(3) 幼児理解のための記録

○記録の意義【埼玉県幼稚園教育課程指導・評価資料（平成31年3月）P. 23】

- ・ 幼児理解（興味・関心、環境との関わり、生活の取組等）
- ・ 次の保育の構想（自身の指導を振り返り、指導の改善に生かす。）
- ・ 保護者との連携（園と家庭での幼児の生活を連続した営みとする。）
- ・ 自身の幼児の見方の認知（自身の指導について評価し、次に生かす。）
- ・ 園全体の保育の質の向上（話し合いを重ねて、風通しの良い風土の醸成。）

記録する際の留意事項【埼玉県幼稚園教育課程指導・評価資料（平成31年3月）P. 24】

- 1 幼児のよさや伸びようとする力を捉える。
- 2 継続的に見た変化を捉える。
- 3 他とのかかわりや学級内における関係から共通点を捉える。
- 4 視点をもって捉える。
- 5 翌日の保育に生かす。

5. 小学校教育との接続

(1) 小学校教育につなぐ【幼稚園教育要領 第1章 第3 5(2)】

幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

(2) 幼稚園教育で育みたい資質・能力等の共通理解

幼稚園教育は園での生活の全体を通して、幼児に生きる力の基礎を育むものである。

幼稚園教育の基本や幼児の育ちを見取る視点について、幼稚園の教師が小学校の教師に丁寧に伝え、小学校の教師の理解を深められるよう努めることが必要である。

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに具体的な姿の共有
- ・子育ての目安「3つのめばえ」
- ・接続期プログラム(接続期…5歳児1月～小学校第1学年5月)

(3) 小学校教育における幼稚園教育との連携・接続

今回の改訂で、低学年教育全体の充実を図り、中学年以降の教育に円滑に移行することが明示された。また、幼稚園教育要領等においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」がまとめられ、幼児期の遊びや生活を通じて育まれる自立心や協同性、思考力の芽生えなどの大切さについて共通理解が図られるようになった。

これを手掛かりに、生活科を中心としたスタートカリキュラムを工夫し、幼児教育との接続がより図られることを期待したい。

幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続する重要な役割を担っている。
学校全体で取り組む。

○低学年教育の充実

ア 低学年教育の充実と生活科の位置付け

生活科が、低学年における教育全体の充実を図る上で重視すべき方向を表しており、教科等間の横のつながりと、幼児期からの発達の段階に応じた縦のつながりとの結節点であることを意識することが重要である。

イ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、児童期の初期に目指す姿とも重なるものであり、小学校においては、こうした具体的な育ちの姿を踏まえて、教育課程をつないでいくことが重要である。

ウ 小学校入学当初に大切にしたいこと

小学校入学当初において、児童が主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能になるようにするためには、何より幼児期の学びと育ちに対する理解を前提として、児童が安心して学校生活に慣れ、自らの力を発揮しながら主体的に学習者として育っていく過程を創り出すことが重要である。

エ スタートカリキュラムの編成

幼児期の教育と小学校教育の発達の特性を踏まえた学校段階等間の円滑な接続の観点から、更に重要性が高まっており、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うことなどが示された。

小学校入学当初のスタートカリキュラムは、児童に「明日も学校に来たい」という意欲をかき立て、幼児期の教育から小学校以降の教育への円滑な接続をもたらしてくれるものである。